

方 面	春季演習場定期整備	(1面)
1 師 団	創立記念行事	(2面)
12 旅 団	創立記念行事	(3面)
1 施設団	春季演習場定期整備	(4面)
関東補処	新規採用事務官等入省式	(4面)
混 成 団	入隊式	(5面)



令和7年5月25日 第1084号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住 所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

演習場の整備任務を完遂

陸自初の製品を多数使用

方面隊は4月9日から19日までの間、東富士演習場整備（担任官 第1旅団長以下、約1400人）を実施し、約1150人を実施した。

本整備は作戦遂行能力向上に資することともに、周辺住民の安全を確保し、作戦環境を醸成することを目的として、令和6年度演習場等整備推進委員会（長 幕僚副長（防衛））により、運用構想と整備要領の整合を図り、所要の準備を経て実施したものである。

整備の実施に当たり総監は「ICT技術※及び民生品の活用を推進し、その成果を運用や平素の隊務へ反映」を指導し、各担任官は創意を凝らし、新技術・製品を活用した整備を行った。



ICT技術としてWE Bカメラと移動クロクラを組み合わせ、映像伝送により輕易に遠隔指揮で

整備状況をドローン映像で確認する総監

総監は15日、東富士演習場、22日、北富士演習場の整備状況を視察し、隊員を激励するとともにICT技術や民生品の活用成果と、今後の反映要領の一例を確認した。

※ ICT技術：情報通信技術（Information Communication Technology）



チェーンソーチャップス（防護服）を着用し伐採



陸自初となる円筒形じゃかごを活用した整備

ハラスメントの根絶目指す

ポジティブフィードバック教育

方面隊は4月9日、朝霞駐屯地においてポジティブフィードバック教育を実施した。本教育はハラスメントの根絶を目的として、「ポジティブフィードバック」の著者であるヴィランティの著者であるヴィランティが、監督者将官・直轄部隊長等）32人に対し行った。

牧野氏は「フィードバック（反応、意見、評価などの意）をされない状態で働く、中には組織を辞めてしまう者もいる。上司の在り方は大切で、離職をストップさせるうえでも重要なことである」と述べ、結果・行為・存在・可能性を承認するコミュニケーションスキルを身に着けること、それらのスキルを用いてネガティブな事柄をポジティブに伝える技術について講義した。

討議では4人ずつのグループに区分し、参加者が過去に行ったポジティブフィードバックの共有が実施された。また、肯定的肯定的双方のフィードバックを体験するロールプレイ実習も行われ、指導される側の気持ちに寄り添ったフィードバックの重要性について認識し、今後の指導へ生かすための学びとなった。

終了後、参加者からは「組織全体の成果が上がるので、目標達成のため自分を戒めて指導することの重要性を認識した」「ポジティブフィードバックでハラスメントをなくしていく」「結果のみに執着せずに努力している行為を認めていく」などの感想が聞かれた。



部外講師による講義



部外講師を交えての討議

方面隊各地で入隊式

方面隊の各駐屯地において4月上旬、入隊式が行われた。新隊員は着隊して1週間ほどしか経っていないにもかかわらず、堂々と式に臨み、着隊前とは見違えるようなたくましさ、参列した隊員家族らも驚いている様子であった。



連隊歌斉唱（第1普通科連隊）



武器授与式（第13普通科連隊）



隊旗授与式（第34普通科連隊）



宣誓（女性自衛官教育隊）



辞令書交付（東部方面特科連隊）

第1師団

冷雨の中に示す誇りと使命感
第1師団創立63周年
練馬駐屯地創設74周年 記念行事

師団は冷たい雨が降りしきる4月13日、練馬駐屯地において第1師団創立63周年及び練馬駐屯地創設74周年記念行事「練馬・師団祭」を開催した。「感謝」をテーマにした同行事には、約7000人の来場者が訪れ、節目を迎えた第1師団の力強さと練馬駐屯地の伝統を誇示した。

式典は陸上自衛隊の中でも高い格式を誇る第1師団ならではの厳粛な礼式である行進儀しようで幕を開けた。らっぱの高らかな響きが雨空に反響する中、師団長と埼玉県知事が会場に入場し、その姿に観衆の視線が一斉に注がれた。冷たい雨に打たれながらも直立不動で執行者に栄誉礼をする隊員の姿には、記念行事に込められた誇りと緊張感が滲んでいた。

執行者式辞において「第1師団は風通しの良い働きやすい職場、隊員の安全を大事にできる部隊、仲間・家族を大事にできる組織、そして隊員一人一人が幸せでありたいと思います」と隊員一人一人の幸せが国民の平和の礎を築く「力」であること、自覚と誇りを持ち、任務に当たる意義を述べ、4月5日に入隊し、80人の自衛官候補生に対し「君たちは第1師団の仲間である。君たちが一人戦場に取り残

されたとしても、師団全力をもって救出する」と語った師団長の言葉に、来場者からは感動の声が上がった。式典には徒歩部隊と新隊員の目には静かな国防への決意が見られた。大野埼玉県知事は祝辞において、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症拡大に係る災害派遣への対応を通じて自衛隊の存在がいかに地域住民の生活を支えてきたかを振り返りながら、昼夜を問わず任務に精励する隊員に敬意を表するとともに、地域と自衛隊とのさらなる連携強化にも意欲を示された。

式典後には徒歩部隊と車両部隊による観閲行進が行われた。濡れたグラウンドを力強く行進する隊員の足音と、16式機動戦闘車（MCV）をはじめとする装輪車両のエンジン音が第1音楽隊の演奏と一体となり、緊張感と高揚感が入り混じる空気を作り出していた。

師団らっぱ隊と音楽隊との雄大かつ厳かな合同演奏は、師団の長い歴史と団結の精神を象徴しているようであり、観衆は静かに耳を傾けていた。最も観衆の注目を集めたのは、MCVを含む各種装備を投入して行われた模擬戦闘訓練だ。敵部隊に見立てた標的への突入、制圧、後方支援部隊との連携、戦場での機動力を活かした実演が展開され、その緻密な動きと迫力に会場は大いに沸いた。

装備品展示や自衛隊体験では、自衛隊車両への体験試乗、自衛隊の装備や活動の一端を体験できる足湯体験、給食体験、衛生体験などが用意され、家族連れでにぎわっていた。子どもたちがヘルメットをかぶって敬礼ポーズを決める姿や、大型車両に乗り込んで笑顔を見せる親子の姿が会場の至る所で見られた。また駐屯地体育館では記念会食が実施された。

今回の記念行事は、改めて師団・練馬駐屯地が地域社会に深く根ざし、国民と共にある存在であることを印象づける一日となった。

日米の友好と恒久平和を祈念

師団は3月29日に、先の大戦末期に激戦地となった硫黄島で実施された、令和6年度日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼式に第1普通科連隊から旗衛隊及び儀仗隊を派遣した。硫黄島での慰霊追悼式は、戦後50年を祈念した。

参加した隊員は先人への追悼の意を胸に参列し、困難に命を捧げた日米両国の戦没者の冥福を祈った。

また両国の旗衛隊及び儀仗隊は記念碑の前において、日米友好と恒久平和を誓う固い握手と絆を深めた。（写真）



普通科部隊の糸乱れぬ観閲行進



実戦さながらの模擬戦闘訓練



祝辞を述べる大野埼玉県知事



地域住民と触れ合う体験試乗



師団の歴史と団結の精神を象徴する荘厳な音色

「さくらまつり」初開催
雨の中でも笑顔咲く

春の風物詩として親しまれている練馬駐屯地の桜、それを多くの方により楽しんでもらいたい。と、3月29日に練馬駐屯地さくらまつりが初開催された。あいにくの雨天にもかかわらず、およそ3400人の来場者が訪れ、濡れそぼる桜の花の下で、地域住民や家族連れが自衛隊の装備品展示や各種催しを楽しみ、駐屯地にはにぎわいに包まれた。

さくらまつりでは駐屯地内の桜並木が見頃を迎え、淡いピンクの花びらが雨粒をまといながらも、しっかりと咲き誇っていた。来場者は傘を手にゆつくりと歩を進めながら、桜のトンネルを背景に写真を撮ったり、装備品の前で記念撮影をしていた。（写真）

装備品展示では普段間近で見ることのできない陸上自衛隊の車両がずらりと並び、大人から子どもまで興味津々の様子だった。隊員による丁寧な解説も行われ、来場者からは「わかりやすく、勉強になった」という声が聞かれた。

また模擬売店や子ども向けの体験コーナーも設けられ、雨の中でも多くの笑顔が見られた。

初開催のさくらまつりは、地域に根ざした部隊として災害派遣などでも頼れる存在である師団の素顔に触れる機会として、来場者の心に春の温もりを届けた一日となった。

安心と安全を守る現場の知恵と技術
装備改善提案発表会・展示会で見せた進化の姿

師団は3月26日、令和6年度装備改善提案発表会・展示会を実施した。

本発表会・展示会は日々の任務や訓練を通じて得た現場の知見をもとに、装備の改善・改良を提案し、それを広く共有する場として行われた。

本発表会・展示会では、方面上申を提案した14人の隊員から説明が行われ、副師団長・幕僚長の確認及び師団長の所見を受けた。（写真）

今回の発表会では「装備をどうすれば安全に使いこなせるか」を突き詰めて、改良を自ら提案・実現していくという強い意志が感じられる提案・発表が多く見られた。

師団長は「現場の隊員の知見と工夫が詰まっていた改善提案は、単なる小改良にとどまらず、隊員の安全を守り、ひいては自衛隊にとっての大きな力となる」と隊員のこれまでの労を多とした。

第12旅団

桜花爛漫が式典を祝う

第12旅団創立24周年

相馬原駐屯地創設66周年

記念行事

旅団は4月12日、爛漫と桜花の下、相馬原駐屯地及び相馬原飛行場において第12旅団創立24周年及び相馬原駐屯地創設66周年記念行事を挙行政した。

一般来場者を合わせて約1万2千人が訪れた。執行者の旅団長は「第12旅団は全国の作戦基本部隊の中でも、空中機動力を強化された作戦基本部隊であり、事態に応じて、広域にわたり即応し、任務を遂行することが期待されている。その崇高な使命を完遂するために、来賓に加え、隊員家族や

練を通じた『即応力の強化』と部隊・隊員の『安全の確保、健全性の保持』が必要不可欠であり、各種演習を通じ、防衛整備、災害対応に係る練度を向上することも、時代の変化に対応し得る精強な旅団を育成する（要旨）」と式辞を述べた。

新町駐屯地は4月5日、新町駐屯地創設74周年記念行事を国会議員をはじめ多くの来賓や一般市民が見守る中、盛大に挙行政した。

同時開催された高崎市との共催による第35回しんまち桜まつりの一環として、翌6日も駐屯地が一般開放され、車両の体験試乗や装備品展示を見ようと2日間で約2万3千人の来場者が訪れた。

旅団隷下各駐屯地では新隊員教育隊を編成し、3月下旬から逐次自衛官候補生の受け入れを行い、入隊式を経て課程教育を開始した。



威風堂々の観閲行進



臨場感溢れるオートバイドリル
アルプス太鼓と12音のコラボ演奏
迫力のある装備品展示



来場者を魅了する観閲飛行

進、オスプレイ（V-22）も参加した観閲飛行、音楽隊と松本アルプス太鼓のコラボ演奏、スピード感あるオートバイドリル、空地一体となった迫力ある戦術訓練展示が行われ、来場者から大きな歓声が沸き起こった。訓練展示終了後、会場では装備品展示が行われ、多くの来場者が普段近くで見ることのない装備品を前に、隊員に質問をする光景が見られた。高機動車の体験試乗は、整理券を求めて長蛇の列ができるほどの人気で、

訪れた来場者はその性能や特性を体感し自衛隊を身近に感じていた。また桜並木に並ぶ22店舗の野外売店も大賑わいで、大盛況であった。



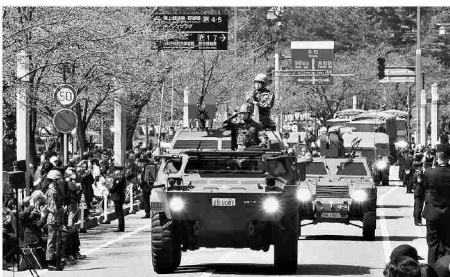
式辞を述べる駐屯地司令



賑わう野外売店

2普連 桜並木を威風堂々

高田城址公園を市中パレード



2普連の車両行進

第2普通科連隊は4月5日、高田城址公園内の高田自衛隊パレードに参加した。本行事は上越市及び上越観光コンベンション協会が主催する「第100回高田城址公園観桜会」の祭事であり、地域住民に安心感と信頼感を醸成して防衛基盤の拡充を図ることを目的としている。第5施設群副群長が部隊指揮官となり、2普連は副連隊長以下123人の徒歩行進部隊、82式指揮通信車、軽装甲機動車、中距離多目的誘導弾等12両からなる車両部隊が、公園内約400メートルの区間を威風堂々と行進した。

希望を胸に81人着隊

各駐屯地自衛官候補生教育始まる



入隊式(新町)



武器授与式(新発田)



区隊旗授与式(松本)



サービスの宣誓(高田)

第1施設団

東富士演習場の定期整備 ICT及び民生品を活用

施設団は4月9日から18日までの間、東富士演習場において令和7年度春季東富士演習場定期整備を実施した。

本整備は第1施設団長が整備隊長となり、第1施設団隷下部隊のほか、21個の部隊を統制下に置き、人員約1500人・車両等約500両による東富士演習場整備隊を編成した。

本整備の目的は、演習場の運用及び整備構想に基づき、効果的かつ効率

的な整備を実施し、作戦遂行能力向上に寄与すること、周辺住民の安全を確保して、作戦環境の醸成を図ることであり、整備に際し、施設技術の練度向上、積極的なICT及び民生品の活用を着意事項とした。

整備隊長は本整備にあたり「東富士演習場の進化」「施設技術能力の向上」「前進から帰隊までの安全管理」の3点を要望した。

ICTの活用として、マシンガイダンスを搭載した油圧式ショベルがあり、任意で設定した角度で容易に法面を整形し、作業効率を大幅に向上させた。

また移動式クロクラ及びWEBカメラを使用して、各作業現場の進捗状況をリアルタイムで掌握させた。

民生品の活用として、骨材を装填することで土留め等に使用できる「かご丸くん」、地盤の沈下防止に有効な「ジオテキスタイル」「D・B・Ox」等の各種民生品を積極的に使用して、演習場の機能向上、機能維持に寄与した。

さらに施設団本部付隊調査設計班により、弾性波探査を実施して、新探の調査に寄与した。

4月15日には総監の視察を受け、整備隊長より、整備前・後の景況を映像や写真で報告するとともに、現地視察においては、各地区整備隊より、各地のICT及び民生品の活用状況、整備上の着意について報告した。視察に際し総監は、各現場の隊員を激励するとともに、弾性波探査現場において、総監自ら起振点打撃を体験し、弾性波探査の特性について確認した。

本整備では昨年に引き続き、航空自衛隊の中部航空施設隊との技術交流を実施し、互いの能力を向上させた。

整備隊は大きな事故なく整備を概成させ、16日・17日の2日間をかけて整備隊長点検を受検し、令和7年春季東富士演習場定期整備の任務を完遂した。

マシンガイダンスを使用した法面の整形

関東補給処は4月1日、本処及び松戸・古河・用賀・朝日燃料支処において令和7年度新規採用事務官等入省式を実施し、8人が参加した本処での入省式において処長は、国内外の情勢に触れた後「自己の職務の重要性を認識し、その能力を遺憾なく発揮することを期待する。(中略)防衛省・自衛隊の任務遂行に貢献し、国民から信頼され、その期待に応え得る防衛事務官に成長します」と話した。

関東補給処

新規採用事務官等が着隊 新戦力が服務の宣誓



服務の宣誓（本処）



集合写真（古河）



支処長説示（用賀）



新庁舎前で集合写真

松戸支処で 新庁舎落成式

気持ち新たに所命必遂

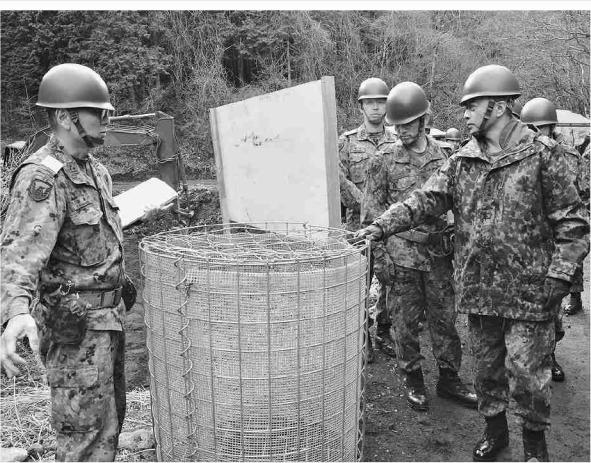
松戸支処は3月28日、松戸駐屯地においてOB会長、駐屯地司令、各部隊長等が参加する中、新庁舎の落成式を実施した。

令和5年12月から工事が開始された新庁舎は、約72年振りの落成となり、翌日の創立27周年記念行事に間に合う形で竣工となった。

支処長は式辞において「勤務環境が整った新庁舎への移転を機に、松戸支処が担う『職責を自覚』することともに、高いプロ意識と高度な技術力に裏打ちされた実行力をもって、『所命必遂』任務に邁進し、共に前に進むことを強く要望する」と述べた。



「ジオテキスタイル」工法による路盤補強



民生品の活用状況を確認する総監



空自との技術交流（D・B・Ox）



総監による弾性波探査（起振点打撃）体験



企図を示す駐屯地司令



搭乗者を救護する救難隊

航空救難態勢の充実図る 駐屯地一体となり訓練実施

霞ヶ浦駐屯地は3月26日、駐屯地において霞ヶ浦駐屯地航空救難訓練を実施した。

本訓練は駐屯地内に航空機が到着する事態を想定し、令和7年春季東富士演習場定期整備の任務を完遂した。

霞ヶ浦駐屯地は3月26日、駐屯地において霞ヶ浦駐屯地航空救難訓練を実施した。

本訓練は駐屯地内に航空機が到着する事態を想定し、令和7年春季東富士演習場定期整備の任務を完遂した。

防衛・駐屯地モニター終了・委嘱式 自衛隊・駐屯地の理解促進へ

霞ヶ浦駐屯地は4月4日、駐屯地において防衛・駐屯地モニター終了・委嘱式を実施した。



新規採用のモニター

霞ヶ浦駐屯地は4月4日、駐屯地において防衛・駐屯地モニター終了・委嘱式を実施した。

本訓練は駐屯地内に航空機が到着する事態を想定し、令和7年春季東富士演習場定期整備の任務を完遂した。

東部方面混成団

白衛官の青春スタート 学べ！磨け！同期の絆を育め！

桜の花びらが春風に吹かれて宙を舞う中、4月5日に第117教育大隊（武山駐屯地）で、4月

6日に女性白衛官教育隊員は、約3ヶ月にわたる厳しい訓練に備え、引き締まった表情で式に臨んだ。

さを残しながらも、入隊式においては堂々とした立ち振る舞いを披露した。入隊式に参列した家族らはその変わりように目を見張り、第117教育大隊では「別人のように頼もしくなり、涙があふれました」女性白衛官教育隊では「いままでもわいかった娘が、今日は



入隊式に向かう女性新隊員



同期と記念撮影をする女性新隊員



宣誓を読み上げる男性新隊員



愛娘から応援をもらう母親新隊員



入隊式に臨む男性新隊員



班長の射撃指導を真剣に聞く新隊員



初めての実弾射撃を行う新隊員

初訓練、気迫の一発

第117教育大隊で白衛官としての第一歩を踏み出した新隊員の訓練がいよいよ始まった。敬礼や整列、基本姿勢や動作を繰り返し習得する基礎から、射撃、基本射撃（長坂）において新隊員たちは、小銃をしっかりと保持し、号令に厳格に従って整然と射撃位置へ進む。初めての経験に緊張を感じつつも、銃を構える手はきこなくも射撃予習時よりいっそう真剣な表情に変わり、その覚悟と責任の重さが伝わってきた。「撃て！」の号令で一斉に鳴り響く銃声、弾が正確に的を貫くたびに小銃の性能と威力に驚きを感じて

つも武器を使用する任務の重大さに対する自覚が隊員に刻まれていった。仲間とともに汗を流しながら、彼らは一歩ずつ「防人」への道を歩み始めている。

東部方面混成団
公式Xはこちら！
陸上自衛隊【東部方面混成団】公式
@EACB_takeyama
たくさんのフォロー
お待ちしております！



総監部人事部募集課 募集ニュース

新着任広報官に教育

部外講師のビジネスマナーも

総監部は4月8日から10日までの間、朝霞駐屯地に於いて令和7年度第1回特種「募集」集合教育及び地方協力本部新着任幹部集合訓練（募集）を実施した。東方管内各地本から新着任の事務所長及び広報官等約100人が参加した。教育開始に先立ち総監部幕僚長が、広報官の心構えや大阪地本長時代の経験談について講話した。1日目は募集の概要から始まり、地本の組織、関係法規の教育及び採用業務・広報官業務等について教育した。質疑応答では積極的に疑問点の解消に努めている参加者が多く見られた。2日目は部外講師による傾聴技法及びビジネスマナーの教育を実施し、広報官活動の第一歩となる知識と技能を修得した。実際に傾聴技法を取り入れた対面式話法の実践により、会話から相手の特徴や思考の傾向などを聞き取り、相手のニーズにあった答えを準備しながら次の接点を確実に獲得する要領を学んだ。ビジネスマナーの教育



総監部幕僚長による講話



部外講師によるビジネスマナー等の教育



沖縄地本募集班長による講話



ビジネスマナーの実践



対面式話法の実践

一方、新人広報官はテレアポによる募集広報の要領について学んだ。各地本から選抜された優秀な広報官による実技展示の後、実際に広報官と対象者役に分かれ、実践しながらのロールプレイ方式の総合演習に取り組んだ。優秀な広報官の的確なアドバイスにより、「不安が払拭された」との声が聞かれた。人事部長説示では「本教育は全国トップの広報官による教育ロールプレイ方式の総合演習等、他の方面隊に例のない最高のレベルの教育内容で構成されている。対象者ファーストの考えの下、ここで学んだことを愚直に実践すれば必ず募集目標を達成できる」と教育参加者全員を激励した。今後は地本及び職・技能・経験に応じた段階的教育を体系的に実践することにも、地本の現場での実践陶冶を融合させることで、1年目から募集目標を達成できる広報官を育成すべく、総監部として抜本的な教育改革に挑戦していく。

群通シ 伝統を後世に継承 創隊42周年記念会食を開催

システム通信群は3月29日、朝霞駐屯地において創隊42周年記念会食をシステム通信群OB会との共催により開催した。

シ通群は昭和58年3月当時、市ヶ谷駐屯地に所在していた第101基地通信大隊を基幹とする東部方面通信群として発足して以来、朝霞駐屯地への移駐、システム通信群への改編等、8度の新改編を経て令和6年度に創隊42周年を迎えた。

記念会食会場では今年度発行した群各部隊広報誌、今年度作成したシステム通信群長メダル及びシステム通信群最先任上級曹長メダル、総監から受賞した第3級賞状の紹介エリヤを設置し、群隊員を含めて来場者に対し、令和6年度におけるシステム通信群の活動状況を紹介し、令和6年度の表彰状を授け、群隊員紹介のイベントを実施して、参加したOB、関係企業等並びに群隊員約300人が終始笑顔で語り、くつろぎ、楽しんだ。

最後は最先任上級曹長による乾杯で幕を閉じ、成功裏に収めることができた。

また記念会食後に群隊員と群OBを対象とした、2次会の場を設け、

昔話に花を咲かせるとともに、OBからの激励を受け、更なる親睦を深めることができた。

シ通群は感謝の気持ちを受け、更なる親睦を深めることができた。



令和6年度を振り返るダイジェスト映像の放映



最先任上級曹長による乾杯

音楽隊 東方音初の試み 室内楽演奏会を2回公演

東部方面音楽隊は3月7日、彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールにおいて、第45回室内楽演奏会を開催した。本会場での開催は昨年に引き続き2

回目であり、平日の夜にもかかわらず約500人の観客が訪れ、自衛隊音楽隊への関心が増していることが伺えた。

本演奏会に際し、外部講師を招へいし、的確なアドバイスのもと創り上げられた音楽は、どの演奏も研ぎ澄まされ、情熱に溢れ、各人の演奏技術の高さが際立つ演奏会となった。その熱い演奏は「想い」となって観客の心に届き、拍手の雨が会場内に降りそそいだ。

後支援 支える力で積極支援 装備品の高可動維持に寄与

東部方面後方支援隊は4月9日から18日までの定期整備に際し、第1施設団を基幹部隊とした11個部隊の兵站支援ニーズに即応するため、第102施設団を基幹部隊として、

後支援隊は引き続き、被支援部隊の任務達成のため日々支援を実施するとともに野外における後方支援能力の向上を図り、被支援部隊を支えていく。



彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール 第45回室内楽演奏会



新座市民会館 チェンバーコンサート

今年度は東音初の試みで室内楽演奏会（小編成で合奏する演奏会でありチェンバーコンサートともいう）を2回開催した。2回目は3月18日、新座市民会館においてチェンバーコンサートを開催した。



グレーダーの整備状況



小型ディスクパッドの交換

訓練所感

東部方面後方支援隊 第301通信直接支援隊 3等陸曹 齊藤麻緒



格闘練成集合訓練を通じて

4月14日から24日までの間、東部方面後方支援隊で実施された第1回格闘練成集合訓練に参加しました。

私は中学生から柔道をしていたので入隊して格闘指導官という資格があることを知り、

新隊員のころから興味をもっていました。今回の集合訓練は2回目の参加でしたが1回目の時は技術、体力不足で不合格でした。もうあきらめようと思っていました。ところが、一緒に練習していた同期達が指導官を目指す方が多くな

導官バッチを着用している姿にどこか諦められず、もう一度チャレンジしようと思い参加を決意しました。正直、不安もありましたが、実際に参加してみると、それ以上に得られるものが大きくて非常に充実した時間を過ごすことができました。

訓練を通して感じたことは、固定概念にとらわれるのではなく視野を広く想像力を働かせ、状況判断、相手の動きを読むことが大切だということです。格闘に限らず、日々の生活にも役立つことだと思いました。

近年女性で格闘指導官を目指す方が多くな

群馬地本

子どもたちとつくる音楽会 第12音楽隊との合同演奏

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所は2月11日、渋川市民会館で開催された、第2回子どもたちとつくる音楽会を支援した。

昨年の12月から渋川市・吉岡町・榛東村の中学校吹奏楽部9校約110人に対する、第12音楽隊によるパート別演奏指導がスタートし、第1回



ステージ場でダンスと演奏を披露する第12音楽隊と中学生

練習会では呼吸法・譜読みの練習方法など基礎練習や演奏曲練習を実施した。第2回練習会では全体練習を行い、各人の立ち位置、一連の流れ等の演奏イメージを確認した。

練習後、生徒からは「具体的な指導でとても分かりやすく、楽しく練習することができた」「いつもの部活と違って大人数で演奏することで、吹奏楽の新たな楽しさを知れた」などの感想があった。本番当日、午前中に最終調整を行った際には、生徒は大ホールでの演奏に緊張の面持ちであったが、12音の気さくな対応や特等席でのリハーサル

観賞により次第に笑顔になり、緊張もほぐれ、本番への準備を万全にした。演奏だけでは多くの学びの場になったように良かった。「来年も開催してもらいたい」など多くの感想があがっていた。

前橋募集案内所は引き続き市町村、学校等と連携しさまざまなイベントを開催して更なる広報活動の拡充に努めていく。

茨城地本

25式機動広報車と命名 ひとときわ目を引くデザインに

茨城地方協力本部は4月14日、広報用車両を導入、この車両を茨城地方協力本部で「25式機動広報車」と命名し、運用を開始した。

25式機動広報車は募集態勢強化の一環として、茨城県内の過疎地や募集対象者が多く集まること

が描かれており、令和7年度限定で県内の広報等で運用していく。また本部自らも通勤・通学の時間帯に併せて登庁に使用して茨城地方協力本部をPRしていく。もし25式機動広報車を見かけることがあれば、ぜひSNS等でシェアしてもらいたいと意気込む。

茨城地方協力本部は25式機動広報車で日常の広報活動をより身近で親しみやすくサポートし、地域とのつながりを深めていく。

ある！ある！自衛隊



25式機動広報車で登庁する茨城地本部長



来場者に階級章等を説明

自衛隊栃木地方協力本部は4月5日、宇都宮駐屯地で実施された、駐屯地創立75周年記念行事において広報ブースを設置した。

当日は多くの来場者で賑わい、迫力ある観閲行進や訓練展示などたくさん催し物が開催された。広報ブースでは制服試着、階級章等の展示、顔出し

パネル、缶バッジ作成、自衛官募集コーナーを設け、多くの来場者が訪れていた。栃木地本キャラクター「広報戦士とちまろ3兄弟」の「りく」が登場すると多くの来場者に囲まれ、人気を博していた。

来場した家族からは「普段は入れない駐屯地の記念行事を毎年楽しみにしています。子供も自衛隊が大好きで、自衛官に憧れています！」との感想が聞かれた。また、自衛官募集コーナーにも多くの来場者が訪れ、賑わいを見せていた。

栃木地本

宇都宮駐屯地記念行事で 広報ブースを設置

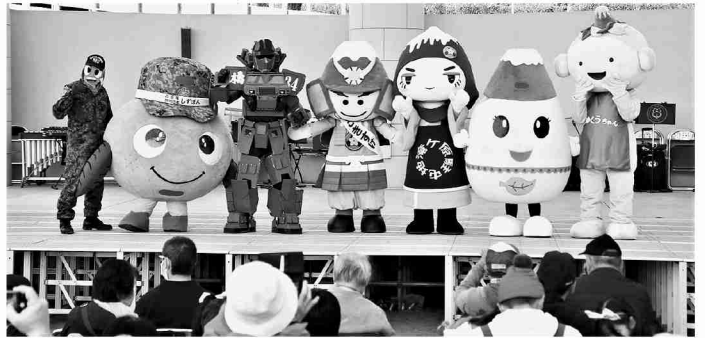
自衛隊栃木地方協力本部は4月5日、宇都宮駐屯地で実施された、駐屯地創立75周年記念行事において広報ブースを設置した。

当日は多くの来場者で賑わい、迫力ある観閲行進や訓練展示などたくさん催し物が開催された。広報ブースでは制服試着、階級章等の展示、顔出し

パネル、缶バッジ作成、自衛官募集コーナーを設け、多くの来場者が訪れていた。栃木地本キャラクター「広報戦士とちまろ3兄弟」の「りく」が登場すると多くの来場者に囲まれ、人気を博していた。

来場した家族からは「普段は入れない駐屯地の記念行事を毎年楽しみにしています。子供も自衛隊が大好きで、自衛官に憧れています！」との感想が聞かれた。また、自衛官募集コーナーにも多くの来場者が訪れ、賑わいを見せていた。

静岡地本 富士山樹空の森でPR



自衛隊キャラクターの紹介

自衛隊静岡地方協力本部は3月23日、御殿場市に所在する富士山樹空の森で開催された第5回富士山樹空の森まつりで広報活動を行った。

当日は晴天に恵まれ、6550人の来場者で賑わった。静岡地本は広報ブースを開設し、自衛隊の活動や職種の紹介、子ども用制服の試着体験、ブルーインパルスや戦車のVR体験などを行った。

特に子ども達がミニ制服を着て展示用ヘリコプターで写真を撮る体験は、待機列が途切れないうえに人気を集めた。また同施設周辺に所在する陸上自衛隊の部隊もさまざまな催しで来場者と交流した。

神奈川地本

福祉専門学校で 就職ガイダンスを実施

自衛隊神奈川地方協力本部上岡募集案内所は2月26日、湘南医療福祉専門学校（横浜市戸塚区）で開催された、就職ガイダンスに参加した。

ガイダンスにはリクルーティストを身にとった

実施できる第一線救護衛生員についての説明では、自衛隊にも救急救命士として活動できる職域があることを初めて知ったという声も聞かれ、参加者はメモを取りながら真剣に耳を傾けていた。



教育勤務環境についての説明を受ける学生

参加者からは「教育体系がしっかり整備されている」「他の職場では体験できないことを経験できる」など、好意的な感想が聞かれた。上岡募集案内所は今後も学校との連携を深め、多くの生徒や教職員に自衛隊の魅力を伝えていく。

最先任 上級曹長

「父の教え」

第1師団

有本 将光 准陸尉



令和7年3月17日付で、第9代第1師団兼ねて練馬駐屯地最先任上級曹長に上番しました有本准尉です。東京都をはじめとする1都6県の防衛・警備、災害派遣、国民保護などを担任する第1師団の最先任上級曹長

として職責を与えられたことを非常に光栄に思っており、その重責に身が引き締まる思いです。第1普通科連隊最先任上級曹長の際にあつたに投稿させていた以来、5年振りの投稿となります。今回は父の日も近い

という事で、私が父から教わった言葉を紹介したいと思います。皆さん「結果を出す」と「プロセスを大事にする」とのどちらが大切だと思いますか。勿論、結果とプロセスは車の両輪のようなもので、どちらか一方だけでは前に進むことはできません。目的を達成するためには、適切なプロセスを継続的に改善していくことが重要です。私が子供の頃、父親から「結果は

解し大切にしています。私たち自衛官は結果が重視される場面が多く、任務を達成することが最も重要です。しかし結果を出すためには、何よりもプロセスが大切だと思っています。各種訓練や学校教育等で基本基礎を何度も繰り返しますが、その一つ一つが目に見える結果に繋がらないこともありますが、それがやがていかに繋がって、自分を豊かにし、周りの隊員にも良い影響を与え、結果として任務達成に繋がると信じて、日々努力していきたいと思っています。

即応予備自衛官

第31普通科連隊

久松 岳 予備3等陸曹



私は以前、第一後方支援連隊で自衛官として勤務していました。現在は、神奈川県中央交通株式会社で路線バスの運転手として横浜市西部地域のみなさんの移動を支える仕事をしています。そしてその傍ら、平成31年から即応予備自衛官としても活動が続けて



います。普段はバスのハンドルを握りながら、たくさんの人々の暮らしに寄り添う日々を送っていますが、いざというときに役に立ちたいという気持ちは、自衛官だった頃からずっと変わっていません。訓練のたびに久しぶりに仲間たちと顔を合わせ

せ、体を動かしながら、自分の原点を思い出すことができています。仕事と訓練の両立は大変なこともあります。それでも何かあったときに、すぐに動ける自分になりたいと思っています。そのために体力作りや衛生隊員としての勉強も欠かさず、自分なりにできる準備を続けています。これからも地域の一員として、そして即応予備自衛官として、日々の仕事や訓練を大切にしていきたいです。大きなことはできなくても、自分ができることをしっかりとやるその気持ちを忘れずに、これからも前向きに頑張っていきたいと思います。

「誠実そして前向きに」

関東補給処総務部 関 梨紗 1等陸曹

脈を築けることに魅力を感じています。Q 自身のモットーは？ 「誠実そして前向きに」がモットーです。多くの

人たちに支えられてきたこれまでの自衛隊生活を、これからは多くの人を支えていきたいと思っているので、常に誰とも誠実に接することを心掛けています。また成功も失敗も何事も成長に繋がると信じて、どんな任

務も前向きに積極的に取り組むように心掛けています。Q 趣味は？ ヨガです。子育てに追われる中、自宅で気軽にできて、自分自身を大切に

する時間を持つことができ、心身のバランスを保つことができるので、毎朝子どもが起きる前に10分程度毎日欠かさず行っています。Q 趣味以外ではまっ

ていることは？ お酒を飲むことです。家族・友人・上司・同僚・後輩とお酒を飲みながら過ごす時間は、私にとってもより絆を深めることのできるかけがえのない時間です。Q プライベートでチ

ヤレンジしたいことは？ 富士山登頂と100kmマラソンに挑戦して、これまで感じたことのない達成感と限界を超える経験をしてみたいです。Q 最後に一言

私が今もこうして日々充実した自衛隊生活を送っているのは、これまで私の成長を温かく見守り、時には厳しく指導・ご善導くださった皆さんのおかげであると心から感謝しています。これから皆さんと共に歩んでいくことを楽しみにしています。

川県出身の27歳、陸曹候補生に指定されています。Q 自衛隊に入隊したきっかけは？ 東日本震災の時にテレビを通じて、災害派遣で活動している自衛官の姿に憧れ、自身も国民の皆様の助けをすることができ

る職業を志したためです。Q 普段の業務内容と心掛けていることは？ 航空機を整備するにあたり、整備陸曹の補佐を主として行っています。また整備を円滑に行うためにも、整備で使用する消耗品の補充等、環境の整備に努めています。航空機が安全に飛行できるように、整備中は特に先輩上司への確認とともに、ダブルチェックを確

行することで、不安全事故を生起させないよう心掛けています。Q 趣味は何ですか？ ダーツです。現在もダーツバーに通っており、ダーツを楽しむことはもちろんのこと、そこでの交流で仲良くなった知人と一緒に大会に参加し、結果を出せた時の達成感や喜びを分かち合うことができるため、今後も続け

ていきたいです。Q 今後の目標は？ 後輩育成です。今年度3等陸曹昇任予定のため、より一層の責任が伴うことから自分自身だけではなく、後輩隊員の能力向上を図ることで、部隊の任務達成に貢献していきたいと考えます。また後輩隊員の模範となれるよう、今後も心技体を磨き実員指揮能力や指導力を向上させていきます。

東方男児

「磨斧作針」 東部方面航空野整備隊 水谷 駿介 陸士長



今月の東方男児は立川駐屯地に所在する東部方面航空野整備隊の水谷士長です。水谷士長は神奈

「磨斧作針」一人の自衛官として、どんなに困難でも忍耐強く努力し、心身を鍛え、技能を磨き、強い責任感を持って任務達成に寄与していきたいと思

います。普段はバスのハンドルを握りながら、たくさんの人々の暮らしに寄り添う日々を送っていますが、いざというときに役に立ちたいという気持ちは、自衛官だった頃からずっと変わっていません。訓練のたびに久しぶりに仲間たちと顔を合わせ

せ、体を動かしながら、自分の原点を思い出すことができています。仕事と訓練の両立は大変なこともあります。それでも何かあったときに、すぐに動ける自分になりたいと思っています。そのために体力作りや衛生隊員としての勉強も欠かさず、自分なりにできる準備を続けています。これからも地域の一員として、そして即応予備自衛官として、日々の仕事や訓練を大切にしていきたいです。大きなことはできなくても、自分ができることをしっかりとやるその気持ちを忘れずに、これからも前向きに頑張っていきたいと思います。

編集後記

単身赴任の皆様、ご飯はいつも何を食べていますか。朝はパン、昼食は有料喫食で隊員食堂、そして晩御飯は、缶ビールとコンビニで買ったお惣菜に

5年ほど前の私は、朝、日の昇らない時間帯に登庁、煙草をやめたので、昼食まで日光を見ることが無く(当時は地下勤務、課業終了後、お腹が空いてもパソコンにとらめ、そして23時頃に官舎到着(帰れるだけ幸せ)、缶ビールを1本、風呂に入って寝る。

こんな生活を3年も実施。趣味はありませんが、何かあれば直ぐに登庁して、対処をしていたので、遠くに行きたくな...

結果「骨粗しょう症」に。40歳代なのに骨密度は80歳代と同じ。医師からは「日光を浴びる、規則正しい食生活」と言われ努力。現在は、60歳代まで骨密度が回復中。地下勤務の皆さん、ビタミンDの生成に不可欠な日光の光を浴び、タンパク質を重視した食生活を心掛け、健康に気を付けて下さいね。日光の下での運動と睡眠と食事が大事です。